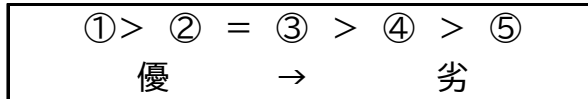


判定基準の優劣順位を以下の通りとする。

- ①「技有り」の有無
- ②「技有り」にはいたらないが、正確な攻撃でダメージ度の高いもの。または試合の主導権をにぎっているもの。
- ③「減点」の有無
- ④主導権の中で、手数、圧力、技術力、有効打撃の中で、どれかが勝っているもの。
- ⑤勝利への気迫



勝者は、一本勝ち、判定勝ち、相手の反則、失格により決定する。

(1) 一本勝ち

相手の攻撃のダメージにより試合が続行不可能になった場合。技ありを2本とった場合。

自身の攻撃によるダメージにより試合が続行不可能になった場合。

(2) 技有り

ダウンしなくても、打撃が入り一瞬続行不能になった場合。

自身の攻撃によるダメージにより一瞬続行不能になった場合。

(3) TKO(テクニカル・ノックアウト)選手は、以下の場合にTKO(テクニカル・ノックアウト)となる。

- ① 選手的一方が著しく優勢な場合は、主審の判断により、試合終了を待たずに勝者を決定することができる。
- ② 選手が負傷や大きなダメージにより大会医師が試合続行不可能と判断した場合。(ドクターストップ)

(4) 判定勝ち

試合時間内に一本勝ちやTKO、失格で勝敗が決まらなかった場合は審判団の判定により勝敗を決する。

どちらかの選手が、審判団数の過半数以上の賛同を得た場合に勝利となる。それ以外は、引き分けとする。

●反則による減点ならびに注意

反則には注意1が与えられ、以下の分類にて3種類に分けられる。

Ⓐ 危険行為による反則 ※反則規定をご参照ください。

Ⓑ 掴み等に関わる反則 ※反則規定をご参照ください。

Ⓒ その他の違反行為の反則

Ⓐ Ⓑ Ⓒ の反則行為はすべて合計して計算され注意3で減点1注意4で減点2の失格とする。

(例: 顔面殴打注意1、金的攻撃注意1、掴み注意1で減点1。減点1後の全ての反則行為は注意4の減点2で即失格となる)

※反則の種類や度合い、悪質であると判断された場合には、即刻減点、もしくは失格となる場合もある。

違反行為も審判が悪質であると判断した場合は、危険行為として反則に合算する場合もある。

※体重オーバーについて

体重別の階級で受付計量時に出場階級より500グラム以内でオーバーの場合は減点1で試合を行う

500グラムより超えた場合は失格となり出場出来ません。試合開始30分前まで再計量可。

※計量は道衣の下と上はTシャツ1枚で計量し着衣分-900グラムで行う

(例: 65kg未満の場合65.9kgまで軽量OK)☒

反則規定

㊤危険行為による反則

①蹴り以外(一般男子クラス以外の上段への膝蹴りは反則)の顔面及び喉への殴打。

(手、肘、腕、による首から上への攻撃。首への攻撃は反則となる。有効技以外による殴打)

故意であるなしに関わらず厳しく注意をとる。

②頭突きによる攻撃。

③男子選手の金的への攻撃。及び、女子選手の下腹部への攻撃。

但し、男子の出場選手には金的ファールカップ、女子の出場選手にはアンダーガードの着用を義務付ける。

女子選手の下腹部とは、帯から下(ハソから下)から足の付け根の辺りまでの鼠蹊部(そけいぶ)の事をいう。

カップやアンダーガード着用の上で金的や下腹部への攻撃を受けた場合、反則した選手に注意が与えられ

ダメージのある選手には、1試合～2試合の休憩時間を与える措置をとる。

カップやアンダーガードの着用義務を怠り、金的や下腹部への攻撃を受けた場合は、反則した選手に注意が与えられるが、ダメージが大きくて試合を続行出来ない時は、自己の不注意による試合続行不可能として相手選手の勝ち扱いとなる場合もある。

④一般男子クラス以外での上段への膝蹴り。

⑤倒れた相手へ直接打撃を加えたとき。

⑥関節部分に関節技、あるいは首への締め技をかけること。

⑦背後からの攻撃 相手選手が完全に無防備に後を向いてしまった場合には、攻撃してはいけないが後ろを向いてしまった選手には戦意放棄と見なし「場外」と同じ扱いの注意が与えられる。

⑧試合終了、あるいは主審の止めのコール後や相手が場外に出たのに攻撃すること。

※但し、プロテクターが外れたり、あるいは場外になるときに、気を抜いて相手の攻撃によりダメージを受けた場合は、審判の判断により、技有り、又は一本になる場合もあるので絶対に気を抜かないこと。試合中に気を抜いた選手には、戦意放棄と見なした警告が与えられる。

㊤掴み等に関わる反則

①両手による掴み。

片手による掴みは、攻撃のための瞬間的なものを認めるが、それ以外は反則とする。

両手による掴みは首相撲も含め反則。

一瞬の掴みにおいて掴む部位は、帯より上の上半身部分において認める。但し、道衣の背中部分に対する掴みは反則とする。

引っ掛けに関しては、全て開手のみで行う事とする。一瞬の引っ掛けに関しては、手刀、背刀、背手、掌手の部分(手首の折れ曲る部分から先の部分)で一瞬のみ認める。手の平部分での頭部に対しての打ち込み、押さえ込み、引っ張り込みについては反則とする。但し、一瞬の技を出す為の引っ掛けは有効である。

手首(折れ曲がる部分)から肘の間で瞬時でも引っ掛ける場合は抱え込みとなり反則となる。

②両手で相手を掴んで投げること。

但し、片手で袖口を掴んで足払いをかけて倒して決めた上、残心を取った場合や崩して突き・蹴りを入れた場合は判定材料で有効となる。(瞬間的に技を掛けないと掴みの反則となる)

③掌底で相手を押す行為(攻撃へ繋げる為の一瞬の片手の押しは可能、攻撃につながらない押すだけの行為は反則となります)

相手の腕を押さえる行為や、拳で相手を押さえる行為も掴みの反則に含む。

④胸を付ける行為は反則とする。

⑤頭を付けての打合いは反則とする。

◎その他の違反行為に関わる反則

①故意に場外に逃げる事。(場外注意)場外注意は、3回目で注意1、4回目で減点1、5回目で失格とする。

②技の掛け逃げは、反則として注意をとる。

自分が技を掛けた後、倒れ込んでしまう様な技(胴回し回転蹴り等)は相手の攻撃が効いた時など苦し紛れや休む為に出した場合「掛け逃げ」と判断する。最初の1回は注意を取らず警告を促し、2回目からは注意を取る。

技の掛け逃げに関しては、注意3で減点1とする。

③過度な反則のアピールは、度が過ぎると注意、減点の対象となる。

選手は武道である空手の大会に出場しており、勝つためだけに相手選手の微少な反則(軽く手が顔に触れただけや軽い金的攻撃で大げさに痛がる等)を過剰に反則を審判にアピールする行為は非常に見苦しく空手道精神に反する。

虚偽の反則アピールも減点、失格の対象になります。(下段のダメージをごまかすために金的を押さえてうづくまる等)

④選手、セコンドが相手選手を中傷するような掛け声や、野次などをとばした場合、選手に注意や減点が与えられることがある。

⑤以上の他、審判員が反則だと見なした行為。

失格について

① 試合中、審判員の指示に従わない時。

③ 見合ったままの状態でも30秒以上経過し双方注意の後、その後も戦意無しの場合、双方失格となる。

④ 粗暴な振る舞い、悪質な試合態度とみなされた時

⑤ 減点を2回重ねた時。(ただし、反則行為で減点1を取られた場合の後の、反則行為は減点2となり失格となる)

⑥ 反則攻撃により、相手選手が負傷して試合続行不可能になった場合。

道衣に関する規定

道衣の色は白のみとする。

道衣の袖の長さは、肘が隠れる長さとする。

一般クラスは一瞬の掴み認めているため袖は折らずに試合を行うこととする。

●ドクターストップについて

大会医師が試合の続行が不可能だと判断した場合、本人、セコンドの意志にかかわらず試合は継続出来ません。

選手が負傷のため、試合を続行することができない場合には、次の項目によって勝敗を決定する。

負傷の原因が相手の反則による場合は、故意・偶発性にかかわらず反則者の負けとする。

(負傷者が出た場合、試合を継続させるかどうかは大会医師の判断で、試合の勝敗に関する事は、審判長・審判員・監査役が協議の上、決定する。)

負傷の原因が負傷者自身の不注意による場合は、負傷をした方の負けとする。(負傷者が出た場合、試合を継続させるかどうかは大会医師の判断で、試合の勝敗に関する事は、審判長・審判員・監査役が協議の上、決定する)

●膠着状態、或いは場外際等できわどい状況で、主審が“止め”または“場外”などのコールを宣告した後にガードを下げ戦う状態を解いてしまった場合、その瞬間に攻撃を受けて負傷しても審判判断で技ありや一本になる場合があるので選手は注意する事。

●選手は身体に下着(シャツやTシャツ着用は女子のみ認めるものとする。男子は不可)、空手着、各クラスで認められた装着義務のあるサポーターやグローブ類以外の物を付けてはならない。

男子は体の傷等を隠すための、Tシャツ等の着用は主催者、審判団の事前了承した選手のみ認める。大会審判が認めたテーピング等は、この限りではない。指輪、ミサンガ、鼻腔拡張テープ等は必ず外さなければ試合を行う事はできないものとする。

●選手または所属する団体の責任者は、審判員の宣告に対して異議を申し立てる事はできない。

●本大会規定に定められていない問題が生じた場合、大会役員、審判長、審判員、及び試合審議役の合議によってこれを処理するものとする。

試合時間の規定を以下の通りとする。

	予選			準決勝(ベスト4より)		
	本選	延長	再延長	本選	延長	再延長
一般男子	2分	2分 (マスト)	なし	3分	2分	2分 (マスト)
一般女子						
40歳以上 男子	2分	2分 (マスト)	なし	2分	2分	2分 (マスト)
40歳以上 女子						
45歳以上 男子						
45歳以上 女子						

マスト=マストシステム、必ず赤白どちらかに判定が上がります。

防具の規定を以下の通りとする。

試合直前、試合中に着用義務の防具を着用していない場合や不備が見つかった場合、減点の対象となる場合がありますのでご注意ください。

- 着用義務(各自用意)
- スネ、ヒザのサポーターはプラスチック、革素材不可、布スポンジ製に限る。試合直前、試合中に打撃面の劣化が激しかった場合や防具としての機能が損なわれている場合、減点の対象となる場合がありますのでご注意ください。
 - ※ 40歳以上～男子、女子は大会用公認グローブ使用になります。貸出あり

	スネサポーター	ヒザサポーター	金的サポーター	アンダーガード	空手用スポーツブラ プラスチック 金属素材 使用禁止	大会用グローブ (真正公認グローブ)
一般 男子			○			
一般 女子				○	○	
40歳以上～ 男子	○	○	○			※
40歳以上～ 女子	○	○		○	○	※